

日仏演劇協会編

今日のフランス演劇

I

白水社

日仏演劇協会編
今日のフランス演劇 1

定価 八五〇円

一九六六年一〇月一〇日 印刷
一九六六年一〇月二〇日 発行

訳者 ©

諏訪 加藤 安堂 篠沢 渡辺 塩瀬
正吉 也夫 章宏
ただ吉 也夫 章宏
精興社印刷・松岳社製本

発行者 草野貞之

印刷者 白井倉之助

発行所 株式会社白水社

東京都千代田区神田小川町三の二四
電話東京(29)七八二一(代)
振替東京三三二二八



禿の女歌手

ニコラス・パタイユ主演 1957

犀

ジャン・ルイ・バロー主演 1960・





ピンボン

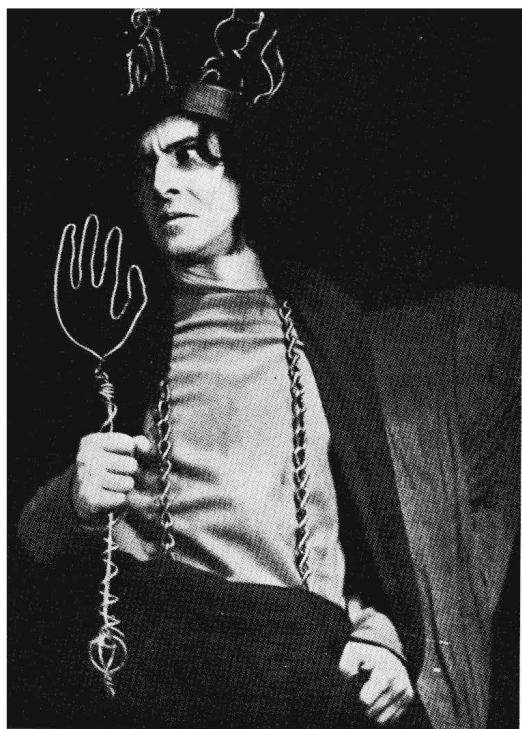
ジャック・モークレル主演

1955 Photo. BERNARD



女中たち

グループNにて上演 1964



エスキュリアル

ミッシェル・ヴィトルド主演

1968



地獄の狂宴

アンドレ・レイバ主演

1969

△フランス大使館提供▽



たたかう男

ジャン・ルイ・バロー主演 1954

目次

禿の女歌手	7
犀	43
ピンポン	135
女中たち	207
エスキュリアル	247
地獄の狂宴	263
たたかう男	301
解説（安堂信也）	425

禿の女歌手_{（一）}

反_{（フ）}戲_{（シ）}曲_{（ビュース）}

ウジェーヌ・イオネスコ
諏訪正訳
作

Eugène Ionesco

LA CANTATRICE CHAUVE

1954

*

Original Copyright by Les Editions GALLIMARD, Paris

Copyright in Japan by HAKUSUIISHA, Tokio

人物

スミス氏

スミス夫人

マーチン氏

マーチン夫人

メアリー 女中

消防署長

第一場

英国の中流家庭の室内。英国の脇掛椅子がある。英国の夕暮れ。その脇掛椅子のひとつにかけた英国人のスミス氏は、英国の炉ばたで、英国のスリッパをはき、英国のパイプをくゆらせ、英国の新聞を読んでいる。彼は英国の眼鏡をかけ、半白の、小さな英国の口髭をたくわえている。かたわらの、別の英国の脇掛椅子には、英国人のスミス夫人。英国の靴下をかがっている。長い英国の沈黙。英国の時計が英国の十七時を打つ。

スミス夫人　まあ、九時。晩のお食事は、スープにお魚にポテトのフライに英国のサラダ。子供たちは英国のお水を飲んだわ。みんな、ほんとによく食べた。だってあたしたち、ロンドンの郊外に住んでいて、スミスっていう名まえですからね。

スミス氏　（新聞を読み続けながら、舌を鳴らす）

スミス夫人　ポテトはとてもよく揚がってたし、サラダ・オイルも悪くなかった。角のお店のサラダ・オイルは、お向かいのより上等。坂下のお店のでさえ、かなわない

わ。といって、よそのお店のがどれもこれも悪いっていうわけじゃないけど。

スミス氏（読み続けながら、舌を鳴らす）

スミス夫人 けれど、一番いいサラダ・オイルはやはり角

のお店の……

スミス氏（読み続けながら、舌を鳴らす）

スミス夫人 メアリイは今晚、ボテトの揚げかたが上手。

この前のときは下手。よく揚げがってないと、好きじゃないの、あたし。

スミス氏（読み続けながら、舌を鳴らす）

スミス夫人 お魚は生きがよかった。ほっぺたが落ちそう。二度もおかわりをしてしまった。いいえ、三度も。

おかげで、おトイレがよい。あなたも三度おかわりなさったわね。でも三度目は、前の二回ほど召し上がりなかった。あたしは、前よりよい食べてしまったわ。今晚、あたしのほうがいたいたわね。どうしてかしら？いつも、あなたのほうが召し上がる。食欲がなかったわけでもないのにね。

スミス氏（舌を鳴らす）

スミス夫人 けど、スープは少しお塩がききすぎたみたい。塩辛かったでしょう、あなたには。ねええ。それに、ニラが多すぎたし、タマネギが少なすぎた。シキミ

の実を少し入れるようにメアリイにいつとけばよかったわ。このつぎは、あたしが上手につくりますからね。

スミス氏（読み続けながら、舌を鳴らす）

スミス夫人 坊やったら、とてもビールを飲みたそうな顔をした。あの子、いまに大食いになるわ。あなた似ね。お酒のびんにずっと目をつけてたの、気がついたでしょ？でもあたし、コップに水をついでやった。のどが渴いてたとみえて、飲んでしまったわ。ヘレンはあたし似。世帯持ちもうまいし、やりくりも上手、ピアノもひける。英国のビールを飲みたいなんてけっしていいわ。ちびそっくりね。あの娘は、飲みものはミルク、食べものはオートミールだけ。もっともまだ二つなんですよのね。名まえはベギー。

マルメロとインゲン豆のバイ、あれはすてきだった。デザートに、オーストラリアのブドー酒でも一杯いただければ、申し分なしというところだけど、お酒はテーブルに出しませんでした。子供たちに牛飲馬食のいけないお手本をみせるのはよくありませんからね。万事、ほどほどにして暮らすことを教えないと。

スミス氏（読み続けながら、舌を鳴らす）

スミス夫人 バーカーさんの奥さんがね、ルーマニアの食料品屋をご存じなの。ポベシエフ・ローゼンフェルドと

いって、コンスタンチノーブルから来たばかりのひと。ヨーグルトの専門家なのよ。アンドリノーブルのヨーグルト学校を出たんです。あした、本場のルーマニア・ヨーグルトを大鍋で買いにいこうと思うの。ロンドンの郊外じゃ、めったに手にはいるものじゃありませんからね。

スミス氏（読み続けながら、舌を鳴らす）

スミス夫人 ヨーグルトは、胃や腎臓や盲腸や妄想にいいの。お隣のジョーンズさんのお子さんが診てもらってるマッケンジー・キング先生がそうおっしゃったわ。そりゃいい先生。とても信用がおけるの。自分で実験してみた薬しか勧めないの。バーカーさんの手術のときだって、まずご自分の肝臓を手術なさったのですもの、少しも悪くなかったのに。

スミス氏 だがどうしてその先生が直って、バーカーさんが亡くなったのだね？

スミス夫人 先生は手術に成功したけど、バーカーさんは成功しなかったからよ。

スミス氏 じゃあマッケンジーはいい医者じゃない。手術というものは、二人とも成功するか、さもなければ二人とも死んでしまうか、どちらかじゃなければならぬはずだ。

スミス夫人 どうして？

スミス氏 良心的な医者には、患者ともども助からないとき、そろって死んでしまわねばならぬ。船長は船もろとも波にまかれて死ぬ。生き残ったりしない。

スミス夫人 患者と船をいっしょにすることはできないわ。

スミス氏 できるとも。船には船の病気がある。しかし、その医者は船同様健康である。故に医者が患者とともに死ぬのは、船長が船とともに死ぬのと同じである。

スミス夫人 まあ！ 思ってもみなかった。……きつとそうね……で、だからどうだっていうの？

スミス氏 つまり医者という医者は残らずいかさま師だということさ。患者だって同じこと。英国でまっとうなのは海軍だけだ。

スミス夫人 でも船乗りは違うわ。

スミス氏 もちろんだ。

間。

スミス氏（相変わらず新聞から眼を放さずに）どうもわからん。新聞の社会面になぜいつも死んだものの年齢を出し、生まれたものの年齢を出さないのか？ ナンセンスだな、これは。

スミス夫人 思ってもみなかったわ！

再び沈黙。時計が七度鳴る。沈黙。時計が三度鳴る。沈黙。時計はぜんぜん鳴らない。

スミス氏 (相変わらず新聞から眼を放さず) おやおや、ポビー・ワトソンが死んだとき。

スミス夫人 まあ、気の毒に。いつ亡くなったのかしら？
スミス氏 どうした、そんなにびっくりしたふりをして？
知ってるじゃないか、二年前に死んだ。覚えてるだろ、葬式に出たじゃないか。一年半になる。

スミス夫人 そりゃ覚えてますとも。すぐ思い出したわ。でも、新聞を見て、あなたがなぜあんなにぎょっとしたかわからないわ。

スミス氏 新聞に出てたのじゃない。あいつが死んだという話してたのは三年前のことだ。いまもののはずみでひよいと思ひだしたんだ！

スミス夫人 まあまあ！ 物覚えのいいこと。

スミス氏 大英帝国のもっともみごとな屍体だった！ 年齢にはみえなかったな。気の毒なポビー。四年前に死んだが、まだ体温は残っていた。息をしているような屍体だった。それに陽気なやつだったな！

スミス夫人 かわいそうな女でしたよ、ポビーってひとは。スミス氏 かわいそうな《男》だろう。

スミス夫人 いいえ、あのひとの奥さんのこと。奥さんも、旦那さんと同じポビーっていう名まえ。ポビー・ワトソンっていう。二人とも同じ名まえだったもので、いっしょのときには、どちらかひとりと呼ぶことはできなかったわ。旦那さんが亡くなってやっと、どっちの話をしているのか区別がついた。けど、近ごろまた、亡くなった旦那さんと奥さんをごっちゃにするひとが出てきて、奥さんにお悔みをいったりしてるわ。あなた、奥さんご存じ？

スミス氏 ポビーのお葬いのとき、たまたま一度顔を合わせたことがある。

スミス夫人 あたし、一度も会ったことないわ。おきれいな方？

スミス氏 整った目鼻だちだが、美人とはいいいかねる。とても大柄で、がんばりょうな女だ。目鼻だちは整っていないが、まれにみる美人といえるだろう。とても小柄で、きゃしゃな女だ。歌の先生なんだよ。

時計が五度打つ。長い間。

スミス夫人 一つ結婚するつもりなのかしら、お二人？
スミス氏 おそくも、来年の春さ。

スミス夫人 やはり結婚式には行かないとね。

スミス氏 贈り物もせにゃなるまい。さて、なににしたものか？

スミス夫人 結婚式のときいただいた銀のお皿のセットね、あの七つのなかから一皿あげてはいけないかしら、なんの役にもたないんですもの。

短い沈黙。時計が二度鳴る。

スミス夫人 あんなに若いのに、寡婦^{やうふ}暮らしを続けるなんて気の毒にね。

スミス氏 子供がないのが、せめてもだ。

スミス夫人 ないどころですか！ かわいそうに何人生んだことか！

スミス氏 まだ若い。すぐ再婚できるさ。喪服を着るとひきたつもんだ。

スミス夫人 でも、子供たちはだれが面倒みるのかしら？
ご存じでしょ、男の子が一人に女の子が一人いるの。名まえはなんていったかしら。

スミス氏 ボビーにボビー、両親と同じさ。ボビー・ワト

ソンのおじさん、つまりボビー・ワトソンじいさんは金持だし、子供好きだ。喜んでボビーの教育を引き受けるよ。

スミス夫人 そりゃそうね。それにボビー・ワトソンのおばさん、つまりボビー・ワトソンばあさんだって喜んでボビー・ワトソン、つまりボビー・ワトソンの娘の教育を引き受けるでしょう。こうなれば、ボビー・ワトソンのおかあさん、つまりボビーだって再婚できるわけ。だからお目あてのひとつ、いるのかしら？

スミス氏 いるとも。ボビー・ワトソンのいとこだ。

スミス夫人 だあれ？ ボビー・ワトソンのこと？

スミス氏 どのボビー・ワトソン？

スミス夫人 死んだボビー・ワトソンのもう一人のおじさんのボビー・ワトソンじいさんの息子のボビー・ワトソンのこと。

スミス氏 いや、そいつじゃない。別なやつだ。死んだボビー・ワトソンのおばさんのボビー・ワトソンばあさんの息子のボビー・ワトソンだ。

スミス夫人 セールスマンのボビー・ワトソンのことね。

スミス氏 どのボビー・ワトソンもみんなセールスマンだ。

スミス夫人 たいへんな商売ね！ でも、いい儲けになる

んですってね。

スミス氏 そう、競争相手がいなければね。

スミス夫人 競争相手のいないのはいつ？

スミス氏 火曜と木曜と火曜だ。

スミス夫人 まあ！一週間に三日も？ その日、ボビ

ー・ワトソンはなにをするの？

スミス氏 休んで、寝ている。

スミス夫人 その三日間競争相手がいないのに、なぜ働かないのかしら？

スミス氏 いちいちそんなこと知るもんか。お前のばかげた質問には答えられん！

スミス夫人（むっとして）あたしをばかにする気？

スミス氏（にっこりして）とんでもない。

スミス夫人 男ってみんな同じ！一日中どんどんとして、煙草をくわえてる。さもなきや、一日に十五回もお白粉をはいたり、口をなおしたり。じゃなきや、一日中酒びたり！

スミス氏 男が女みたいなまねをして、一日中煙草をすい、お白粉をぬり、口紅をつけ、ウイスキーを飲んでるのをみたら、なんっていうつもりだ。

スミス夫人 あたしは、ちっとも構わないわ！でも、そんなことをいって、あたしをばかにしようっていう気な

ら、いいこと……あたしはね、そんな冗談、大きらい。わかってるわね！

彼女は靴下を遠くにほうり投げ、歯をむいてくっつき、立ち上がる。

スミス氏（やはり立ち上がり、いそいそと妻に近寄る）

おやおや！ どうしてそんなにおかんむりなのさ！ わかってるだろう、冗談さ！（抱きかかえて接吻する）なんて滑稽な年寄り夫婦だろうね！ さあ、あかりを消して、おね、ねしよう！

第二場 同じ人物、メアリー

メアリー（登場して）わたくしは女中です。とても楽しい午後を過ごして参りました。男のひとと映画館に行き、大ぜいの女のひとたちと映画を観ました。それから、ブランドーとミルクを飲みに出かけ、そのあとで新聞を読みました。

スミス夫人 そう思ってたわ、あなたが楽しい午後を過ごし、男のひとと映画に行つて、ブランドーとミルクを飲

むだらうって。

スマス氏 それから新聞！

メアリイ お客さまのマーチンご夫妻がお見えです。わたくしを待ってらっしゃいます。勝手におはいりになるうとはなさいません。今晚、ごいっしょにお食事のはずでございましたわね。

スマス夫人 ええ、そう。お待ちしてたのよ。でもお腹が空いたし、お出でにならないようなので、先にはじめてしまったの。一日中、なにも食べなかったのでもうもの。お前、外出してはいけなかったのよ！

メアリイ 奥さまがお許しをくださったのですわ。

スマス氏 出したくて出したわけじゃない！

メアリイ (笑いだす。それからすすり泣く。そして微笑する) わたくし、尿瓶おきぼを買いにいったんですの。

スマス夫人 さあさ、メアリイ、ドアをあけてマーチンさんをお通ししてね。あたしたち、すぐ着換えてきますからね。

スマス夫妻、上手から退場。メアリイが下手のドアをあけると、マーチン夫妻が登場。

第三場 メアリイ、マーチン夫妻

メアリイ なぜこんなにおそくなりました！ エチケットをご存じありませんね。時間を守らないといけません。わかりましたか？ とにかくお掛けになって。ではお待ちを。(退場する)

第四場 マーチン夫妻

マーチン夫妻は差し向かいにすわる。おたがい口をきかない。おずおずとはほえみかわす。

マーチン氏 (以下のせりふは、力のない、一本調子の、いくぶん歌うような、そしてぜんぜんニュアンスのない声で語られねばならぬ) 失礼でございますが、奥さま、どうもその、ひょっとすると、どこかでお目にかかったような気がいたしますのですが。

マーチン夫人 あたくしもですわ、どこかでお目にかかったような気がいたしますの。

マーチン氏 ことによると、いつかマンチェスターでお目にかかったことがございませんでしたでしょうか？